

と志しりー事のありーをぬけおーくも長
是もと云傳へたるもや古俗今も望むる若
を子長といふぬりーもの啼く事ハ今と
ても凶事なりんとする時ハ頗るなること
殊ーりーも是の爲ハ必使ふも是へ傳れ
ハあり事にては但有邪無邪の二ツを啼か
しりといふハ附言の從なりー又中程郡
関材を擧て有邪無邪の関の記なりといふ
人あれとも古歌の辨もて考れば地利似合
しりーに後頼山陽集よ

有世山なるものや無やの関をーも
居るそ人平ぬをあらすん
とあり歌の心を想はるに有世といふ影
よし。有世の事にて仏山の名なりや
仏及び平等利益の及ぶに有邪無邪の
関ありて素後まゐに解ハしられ有世山
なりといひとめて伝々もやけ歌もて考れ
ハ有世の山は有邪無邪の関ありと見え
しり予按するに有世山ハ今の犬吠渡や
旧老傳へ来し橋ふといひる事の邪歌と云